

会 議 録

会 議 の 名 称	平成28年度 第5回美幌町まち・ひと・しごと創生推進委員会
開 催 日 時	平成28年12月21日(水) 14時00分 開会 15時45分 閉会
開 催 場 所	議会事務局第1・2議員控室
出 席 者 氏 名	横山委員、城委員、石川委員、信太委員、田村委員、吉江委員、 村田委員、端委員、水島委員
欠 席 者 氏 名	
事務局職員職氏名	広島総務部長、森久保計画担当主査
議 題	1 開会 2 美幌版総合戦略の推進に向けて 3 平成29年度に向けた美幌版総合戦略に基づく新規事業について 4 その他
会議の公開又は 非公開の別	公開
非 公 開 の 理 由 (会議を非公開とした場合)	—
傍 聴 人 の 数 (会議を公開した場合)	2名(報道機関)
会 議 資 料 の 名 称	<ul style="list-style-type: none"> ・レジュメ ・美幌版総合戦略の推進に向けて(資料1) ・美幌版総合戦略の平成29年度新規事業提案内容(資料2) ・資料2-1 ・追加資料2-1 ・追加資料2-2 ・追加資料2-3 ・資料2-3 ・資料2-4 ・資料2-5
会議録の作成方針	<input type="checkbox"/> 録音テープを使用した全部記録
	<input checked="" type="checkbox"/> 録音テープを使用した要点記録
	<input type="checkbox"/> 要点記録
その他の必要事項	

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
<p>司会：横山会長</p>	<p>定刻より少し早いですが、皆さまお揃いですので、はじめさせていただきます。年末のお忙しい時期にお集まりいただきましてありがとうございます。年明けにも色々あると思いますが、皆さまどうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、事前に配布させていただいた資料ですが、皆さまお持ちでしょうか。はい、では議題のとおり、まずは美幌版総合戦略の推進に向けて、29年度に向けた美幌版総合戦略に基づく新規事業について、貴重なご意見をいただきたいと思っておりますので、皆さまよろしく申し上げます。</p> <p>それと、前回の会議の中で、次年度に向けた事業について意見を伺うと言ったことと、効果検証の中で出てきた意見を踏まえたKPIの見直しだとか、それらを含めたこととお話いただく予定であったと思っておりますが、その事業を含めて、事務局から説明をお願いします。</p>
<p>広島総務部長</p>	<p>年末のお忙しい中にお集まりいただきましてありがとうございます。この総合戦略に基いた事業についてそれぞれ進めさせていただいています。戦略の計画から比べると、まだまだ事業は追いついていない感じですが、平成29年度の予算案が提出されて、これから査定・聞き取りになります。その中でも、総合戦略に基づいた事業については、いくつか予算化されるだろうと思っています。そうしたことについて、委員の皆さまからの貴重なご意見をいただきたいと思っていますし、29年度に補正で対応できるものがあれば、早急な取り組みを進めていきたいと思っていますので、委員の皆さまの前向きなご意見をいただきたいと思っております。本日よりよろしくお願いいたします。</p>
<p>森久保計画担当主査</p>	<p>はい、説明に入る前に、追加資料を確認させていただきます。まずは、事前に配布していた資料1の差し替えをお願いします。次に、追加資料2-1、追加資料2-2、追加資料2-3をお手元に置かせていただきました。よろしくお願いいたします。</p> <p>では、美幌版総合戦略の推進に向けて説明させていただきます。前回の会議では、美幌版総合戦略の効果検証をしていただきました。その中で、KPI や内容について、一度持ち帰って原課と相談させていただき、修正するところは修正して、皆さまにお示しすることをお話ししておりました。しかし、町の内部の話で申し訳ないのですが、この美幌町まち・ひと・しごと創生総合戦略を推進していくに当たり、町の推進体制の見直しを図りました。庁内の推進組織は、本部会議とプロジェクトチームの2つの組織がありまして、本部会議は庁内の意志決定機関、プロジェクトチームは事業の企画や検討を行う組織となっています。特にプロジェクトチームを立ち上げたときは、総合戦略の策定に向けた人材として、移住者やUターン者、子育て中の職員など、様々な経験からの視点を持つメンバーで構成していましたが、28年度に入り、そういった視点よりは事業を着実に推進し、検証をしていくことが必要となってきました。</p> <p>今年度になってPDCAサイクルの一環で検証を始めましたが、皆さまもご存じの通り、余り上手くいかず、プロジェクトチームは事業の推進と検証に対応できる職員で構成した方がよいと考えました。そのため、前回の推進委員会終了後から、12月頭までに庁内組織の見直しを図り、新しい体制を進めていくことになりましたが、事務局の動きが遅かったことや、議会の時期ということもあり、KPIの見直し等については、一旦ストップしている状況となっています。</p> <p>これにつきましては、皆さまに文書での説明もなく、本会議の開催が遅</p>

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
森久保計画担当主査	<p>遅れましたことをお詫び申し上げます。申し訳ありませんでした。そして新体制を整えたことと、これまで皆さまと共に進めてきたことを踏まえまして、今後の進め方の年間のスケジュールを作成しました。</p> <p>それが、差し替えさせていただいた資料1「美幌版総合戦略の推進に向けて」という資料です。</p> <p>新年度になりましたら、事務局側や委員の皆さまに異動などによるメンバー変更もあり得ますので、挨拶と顔合わせを兼ねて4月に第1回目の会議を開催したいと思います。そして総合戦略としては、5月下旬までに実績を取りまとめて、それをプロジェクトチーム、本部会議において効果検証をした後に、皆さまの会議にかけたいと思います。数が多いため、2回ほど行うこととし、それを各担当部局にバックして、今後の改善や事業を立てる際の考え方のヒントとして役立ててもらいます。そして11月頃になりましたら、予算の時期に差し掛かるということもあり、各部局では戦略に係る事業の方向性が決まってくるので、それらを検討して、次年度予算要求の考えに活かしてもらうような流れになっています。PDCAサイクルの推進ということで、表にあるように矢印の途切れることのないような流れにしたいと考えています。次年度以降、こうした流れを基本として、こうした動きになるよう、今年度中に体制を整えて行く予定です。皆さまにはこれからも引き続きのご協力をお願いしたいと思います。</p>
横山会長	<p>今事務局から説明のありました資料1の関係について、庁内で組織の改編があったということを含めて、会議が本日となったこと。また次年度のスケジュールについては、矢印が途切れることなく1年を迎えていくと言うことをございます。今の部分について、何か質問はございますか。よろしいですか。また何かありましたら総括の際に賜りたいと思います。</p> <p>それでは、29年度に向けた美幌版総合戦略に基づく新規事業について、事務局から説明をお願いします。</p>
森久保計画担当主査	<p>はい、平成29年度に向けた美幌版総合戦略に基づく新規事業についてということで、事前に配布した資料に加えて、本日資料を追加しています。資料2をご覧ください。一覧表になっています。最初にお断りを申しますと、ここに挙げられている事業は、事業提案の段階ですので、まだまだ確定していない状況のものです。推進委員の皆さまから、町民目線やそれぞれの立場の目線から見て、こうした方がいいと言った意見をいただき、より良い事業にするためのヒントにしたいと思います。そのため、事業費などは、財務との協議によって増額されたり減額されたり、予算が付かないなどありえますので、参考ということでご了承いただきたいと思います。</p> <p>ではまず一つ目の、「特産品創出・販路拡大支援事業」についてですが、これは昨年度に推進委員の方や職員から出てきた提案を統合して、継続審議とさせていただいていた事業です。</p> <p>概要としてはこの一覧表にあるとおり、美幌町の農林畜産物を活用した新たな特産品の開発や特徴あるパッケージ開発を支援すると同時に、美幌町の独自ブランドを立ち上げ、地域が一体となって特産品を売り出しているという内容になっています。 ・制度設計が進んできまして、それが追加でお渡しした追加資料2-1になります。名称も変わって、「地域特産品開発支援事業」という名称です。この資料は事前にお渡ししていませんでした。事業費やKPIについてまとめてもらったのですが、皆さまに送付するまでに間に合いませんでした。</p> <p>この場で見てくださいなのですが、事業費は約600万円を想定して</p>

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
森久保計画担当主査	<p>K P Iは美幌認証品を平成31年度までに10品目つくるという目標を立てています。この事業のイメージ図は、次のページにあります。「びほろブランド認証制度」と「美幌町特産品開発支援事業」の2つの部門がありまして、ブランド認証制度では、商工会議所が事務局となって認証制度の企画運営や、認証の審査を行うことになっています。この部分については、10月26日に設立されていまして、農協、森林組合、観光物産協会さんが協議会メンバーとして加わっています。そして特産品開発に係る支援については、「美幌町特産品開発支援事業」として、町が事務局として補助を行うものになっています。これらが両輪となって、美幌町の特産品開発やPRを進めていくこととしています。これについてご意見を伺いたいと思います。</p>
横山会長	<p>事業主体として協議会の動きですが、事務局の説明にありましたとおり、10月26日に協議会を立ち上げました。前会頭の若林会頭が「自分の会頭時代のうちに協議会の立ち上げまでは整えたい」ということで、10月26日に立ち上げさせていただきました。その後の詳細につきましては、追加で配布された資料にあるとおり、幹事会を年内に開催する予定だったのですが、会頭などの交代により、日程調整ができませんでした。1月に入りましたら、1回目の幹事会を開き、詳細を詰めていきたいと思っています。このような状況となっていて、なんとか29年度の事業として走りたいと思いますので、そこも含めて皆さまから意見をいただき、参考としたいところもございますので、遠慮なく意見を言っていただきたいと思っています。</p>
端委員	<p>はい、これは新商品の開発に限るものなのか、既存の商品にブランドを付けるものなのか、どういったものでしょうか。</p>
横山会長	<p>ブランド認証の関係では、新商品だけではなくて、既存の商品にも与えるという考えは入っております。想いとしては、食の部分だけではなくて、国際森林認証の木材もありますので、そうしたものについてもブランドとして認証していきたいと思っています。幹事会が終わりましたら、その考えや内容をこの場で皆さまにお伝えできたらと思います。</p>
城委員	<p>このフローチャートですが、商工会議所主体の協議会があって、町が主体の開発支援制度があって、それぞれの委員会が有識者で組織されるとなっています。例えば、ブランド認証は通ったけども、町の開発支援事業は駄目だとか、その逆でブランド認証は駄目だけども、商品開発は補助金が当たるとか、あり得るということですか。</p>
横山会長	<p>制度上、そういうこともあり得ます。本当はイコールがいいのですが、その詳細はこれから詰めていきます。イコールにならなくても、各企業に商品開発への意欲をわかせることができますので、町の開発事業は使いやすい事業になって欲しいなと思います。</p> <p>ほか、どうでしょうか。何かありましたら改めて意見をください。では、次をお願いします。</p>
森久保計画担当主査	<p>次の2番目の事業について説明します。「愛の鐘鳴り響く美幌峠プロジェクト事業」については、これは原案の段階のものでして、これを担当である観光グループがどのように変えたかということ、追加資料2-2になります。</p>

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
森久保計画担当主査	<p>す。これも本日お渡ししたもので申し訳ないのですが、名称が変わりまして、「美幌峠魅力向上事業」となっております。対象としてはインバウンドを含めた観光客となっております。これは、国の事業で国立公園満喫プロジェクトに阿寒国立公園が選定されまして、美幌町にも補助金が配分されることになりました。インバウンドを意識した魅力発信を行えるよう、国、道、町が連携しながら今後整備を図る予定となっております。具体的には、北海道における園地再整備として、屋外トイレ、園路、柵、障がい者用スロープ、駐車場の整備を行うほか、新たな施設として雲海テラス、これは占冠のトマムリゾートにあるものを創造してもらえればいいかなと思います。それとスカイウォーク、展望舎等の整備を北海道に要請していくことを考えています。町が持っているのは、レストハウスの2階部分でして、その改修として、木製遊具を配置したキッズスペース、悪天候でも撮影できるスペースの他、インバウンドを意識した看板やタブレットの配置などを計画しています。その他、まだ先の話ですが、観光案内窓口の設置や雲海ツアーなどのガイドの養成を地域おこし協力隊の活用を視野に入れているということです。29年度の実施内容はレストハウスの改修としてハード整備を行うと聞いております。予算額は5千万円。指標としては、平成32年度の美幌峠の入込客数を82万人にすると設定しています。以上、愛の鐘鳴り響く美幌峠プロジェクトからヒントを得て、このような事業を行っていくということです。ご意見よろしくをお願いします。</p>
横山会長	<p>美幌峠魅力向上につきまして、皆さまから意見を賜りたいと思います。信太局長から補足的な説明はございますか。</p>
信太委員	<p>美幌峠については、説明にもありましたように追い風が吹いていまして、全国32の国立公園のうち、8つが環境省に認定されまして、単年度で美幌峠には100億以上のお金が落ちることになりました。30年度までに外国人観光客を呼びましょうということです。これは国の事業でもありますし、北海道もそれに呼応した形で補正もついています。現場では国からいくら、道からいくら、それに対して町がどのように動くのかが見えてこない。30年度、31年度も計画があるようですが、そこがまだ見えてこない。その情報などをしっかりして欲しいなと思います。</p>
森久保計画担当主査	<p>そうですね、あの建物や設備の管轄が混ざり合っていて、レストハウスの2階は町のもので、1階は物産館、園地となると国と道が色々と分かれていますので、整備となると、町がやるものと、国や道に対して要請していくものについて、まだ道筋がついていない段階なのかなと思います。</p>
吉江委員	<p>スカイウォークとはなんですか。</p>
森久保計画担当主査	<p>空にせり出しているような回路がありまして、そこを散策できるようになっているものです。トマムでは雲海を見るときに、そこを歩くと空を歩いているような感覚になれることから、スカイウォークと名称がついています。</p>
吉江委員	<p>それを美幌峠につくるのですか。建物に？</p>
森久保計画担当主査	<p>そのようなものを作れたという考えです。建物ではなくて、頂上付近で</p>

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
森久保計画担当主査	すね。その管轄は国になりますので、要請していくことになります。
吉江委員	国立公園内では、ものを立てたり作ったりしてはいけないと聞いているのですが。
横山会長	基本的にはそうなのですが、信太局長が言われたとおり、阿寒国立公園満喫プロジェクトとして環境省がやりましょうということなので、今まで国は駄目ですよとしていたものが逆になってきていますので、こういった斬新なアイデアを出してやっていただこうと考えているものだそうです。地べたは網走南部森林管理所で、駐車場などは北海道の管轄です。境目がどこなのか分からない箇所はたくさんあります。レストハウスも、1階が商工会議所で、2階は町の所有です。今回の改修は、2階部分のところだけで、本当は同時に1階も改修して欲しいのですが、国なのか道なのか補助金の条件？出し方として、2階部分だけとなっております。本当は一体的に改修してくれれば、効率のいい整備になると思うのですが、そこがなかなか難しいところです。
吉江委員	1階は駄目なのですか。あその床も古くなっているのに。
村田委員	いいですか。ここに他言語用タブレットの設置とありますが、これは観光用のことを指しているのですか。売店にはそういったものはあるのですか。
森久保計画担当主査	観光用のものだと思います。
横山会長	売店にはないですね。
村田委員	あったらいいですね。ちょっと考えたのですが、売店のことですので町の管轄ではないのですが、観光客は時間のない中でば一っと買い物をしていくものなので、お菓子だとか海産物だとか民芸品だとか、それぞれのベスト5のコーナーを作ったり、千円以下の商品はこれですよ、2千円以上3千円以下はこちらですよ商品を固めて置いておくとか。時間がない人でもお土産を選べるようなコーナーを設けてみてはどうでしょうか。本屋いくと、色々なランク付けをしてあって、そういうのを見て、ランクの高い本を買っていく人がいるので、お土産でもそういうのを見て買い物をしやすくしてはどうかと思いました。
城委員	1階部分は1つの企業が経営していますからね。なかなか口に出せない部分がありますね。
横山会長	そうですね、確かに1階は商工会議所の持ち物なのですが、企業にテナントを貸している状況です。それもありまして、1階の改修が難しいところです。ですが、今のアイデアはいただいております。2階の改修においては、1階から2階に上がるのが前提ですので、その線を作るときに、今後意見のありましたことを含めて、その部分だけでも配慮してもらえないか掛け合っていきたいと思います。
城委員	この案件はこれでいいのですが、これに関連したことです。先日商工会議所のニューツーリズム実行委員会の勉強会に参加しまして、ニューツー

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
城委員	リズムでは、ツーリングマップ構想とか美幌部活動構想など、峠からみどりの村までつなげるようなものを考案していました。あと、旧福豊小学校を改修してそこを憩いの場にする構想などを紹介いただきましたけども、いずれにしても、ハード的にも費用のかかる内容となっていました。そして人口減少対策としての観光対策を考える際、町としては本部会議やPTにおいて、ニューツーリズムの構想とリンクした事業の考えだとか、練ったものは出ていないのでしょうか。ニューツーリズムの行っていることはあちらに任せるよということなのか、それともそれとリンクしてハード部分を整備していくのか。今のこの事業を見ますと、3年間は手を付けないように見えるのですが。そことどうリンクしていくのか考え方をお聞きしたい。
広島総務部長	行政全体からいけば、ニューツーリズム委員会の考え方ですとか、事業計画だとかは説明を受けていません。報告書はいただきましたが、多くの職員は、その中でどういった検討がされて、今後の方向性とかは理解されていませんので、本部会議においても議論はされていません。今後それとどうつなげていくのかは、商工観光グループがどういった形で行政内部に広めていくのか、協議の場に乗せてくるのかということだと思います。
城委員	ニューツーリズムはまだ構想の段階ですが、せっかく今回峠に費用をかけていくのであれば、こうしたことをなるべく間を空けずに一緒に進めていった方が、一体感があるのかなと思います。もたもたしていたら、10年経ったらまだ峠施設の老朽化の問題が出てきて、いつまでもできないような気がします。いつになったら町は一本化していくのかなと気になるとことであります。
広島総務部長	ニューツーリズム委員会が立ち上がって、色々なことを協議して計画を立てたことは、新聞等により職員は知っていると思います。美幌町の観光振興をどうしていくのが根底にありますので、一体的にしていくことを考えなければならないと思います。その協議の場をどのように持つて行くのかは、行政内部で詰めていかないといけないと思っています。
横山会長	はい、では次の説明をお願いします。
森久保計画担当主査	<p>はい、3つ目、美幌町応援プロジェクトという事業です。これはピンク色の婚姻届を切っ掛けとした、その後の展開を考えたものとなっています。一覧表に記載されている内容は当初の案ということで、担当している環境生活グループの窓口業務を行っている部署が、更に検討を進めたところ、追加資料2-3の内容でいきたいとして出されました。</p> <p>美幌町応援プロジェクトで、事業名は変わりません。目的としては、美幌町のちょっとかわいい新婚姻届が、昨年11月4日と12月30日にニュースで取り上げられまして、町村会報にも掲載されるなど、他にもインターネットでも紹介されて、少しずつ知られるようになってきました。この新婚姻届がスタートしたのは平成26年4月で、今年の11月末現在までに婚姻届を提出したカップルは237組、そのうち町外居住者は44組となっています。婚姻届を提出する町外者に、と書いてありますが、町内の人も含めてと聞いておりますけども、美幌町の魅力を伝え、その後も何か美幌町を応援していただき、婚姻届をきっかけに美幌町を広く知っていただきたいというものとなっております。内容としましては、一つ目は</p>

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
森久保計画担当主査	<p>庁舎内の常設写真撮影場所の設置ということで、今のところ2カ所の設置を考えています。1つは庁舎正面玄関入り口のところで、今は小さな美幌のれんが掛かっているところです。あそこは湾曲状の壁になっていますが、そこに美幌町の観光スポットを中心とした写真を飾って撮影場所とします。写真は、23年度と24年度に実施したフォトコンテストで応募された写真を活用することとしています。商工観光グループと連携して、写真撮影のみならず、観光PRを兼ねて写真撮影場所とすることで、婚姻届以外に庁舎を訪れる人に、観光PRすることを目的としています。もう一つは、コミュニケーションボード前ということで、ロールスクリーンに新婚夫婦に相応しい背景を用意して、誰もが美幌町にはるばる婚姻届を提出に来た思い出の一枚を撮影するというものです。写真撮影場所については、FSC認証材による飾り台、これは既に導入済みでして、あと扇形のステージ、これは29年度設置予定ということで、天井には照明を設置してライトアップを行うということです。現在の状況は、提出に来たカップルを小部屋に案内して、職員が手作りの飾り付けをして撮影を行っていたのですが、それだと美幌町の特徴が出ないということでしたので、29年度に予算要求をしていると聞いております。</p> <p>もう一つ、PR冊子の作成ということで、新婚姻届を送る際、美幌町をPRする冊子を同封して、美幌町の魅力を伝え、広く応援していただけるよう努めるとしています。事例が出ています。美幌町のお食事処マップ割引券つき、美幌の味にPRと購入方法、ふるさと納税のご案内などを一緒に入れようかなというものです。このPR冊子の作成はまだまとまっていないということで、関係部署の協力をいただきながら作成を目指すとしています。この冊子の作成については、私の方にも相談がありまして、外部から来た人たちが、美幌町で美味しいものでも食べて帰っていただく、ということで、割引券のついたお食事マップなどの一枚物を作りたいねと、商工観光グループとも連携して29年度に話をまとめていきたいと思っています。以上です。</p>
横山会長	はい、今の説明のあったことについて、ご意見賜りたいと思います。
信太委員	ピンクの婚姻届は、メディアでも取り上げられて拝見したことあるのですが、これは美幌町はもうピンクのもののみということですか。
森久保計画担当主査	そうですね。
広島総務部長	色は決まっていないんですよ。他の市町村も違う色を使っているところもあります。
吉江委員	コミュニケーションボード前とはどこですか。
森久保計画担当主査	売店があって、その隣です。待合のイスがありまして、正面玄関に面した壁の部分に、そのボードがあります。誰もが自由に活用できるボードとしてコミュニケーションボードとされています。
吉江委員	とってつけたような場所に感じますね。そもそも思い出の一枚を撮影しますとなっているのに、その場所があそこではちょっと。はるばる婚姻届を提出してきた人たちに、そうした対応をするのであれば、もうちょっときちんとしたスペースを確保するとかしてあげたらどうでしょう。

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
城委員	中庭にチャペルがあるとか。
吉江委員	全体のレイアウト含めて考え直してはどうでしょうか。
広島総務部長	予算計上がされているのは見えていますので、ヒアリングの際に詳しく聞いてみることにします。
城委員	あそこは手狭だよ。落ち着かないでしょうし。
広島総務部長	住民の方が多く来るカウンターの近くなので、人が多いと難しいかもしれませんね。
吉江委員	背景は、美幌峠など美幌ということが分かるものにして、美幌豚やアスパラのぬいぐるみを持ってもらうとか、自衛隊の格好をしてもらうとか、そういったものでここは美幌だという思い出を残してもらう。
水島副会長	撮られる方としては恥ずかしいですね。人がいるところで、他の町民、中には知り合いがいるかもしれないところで、そうした写真を撮られるのは恥ずかしいと思います。
吉江委員	小部屋はないのですか。
森久保計画担当主査	今までは小さな会議室を利用していました。
吉江委員	それでいいのではないですか。
広島総務部長	場所については、しゃきっとプラザ含めた庁舎全体で考えるようにしておきます。
吉江委員	庁舎入り口は、町の顔だからそれはいいと思うのですが、もう一つはちよつと。
広島総務部長	そうですね、ロールスクリーンに40万円ほどかかるとなっていますので、その金額をかけるのであれば、しっかりとした場所を選定する必要がありますね。
信太委員	恥ずかしくて撮影拒否されたらもったいないですよ。
吉江委員	町内の人でもその撮影は行うのですか。それともあくまで町外の人のみですか。
森久保計画担当主査	いえ、町内の人でも、写真どうぞと促せば、皆さん撮るそうです。
吉江委員	町内の人でも撮るなら、なおさら恥ずかしいよね。
城委員	PR冊子が何故30年度なんですかね。PR冊子も同時に動いたらどうですか。
広島総務部長	まだまだ関係部署の合意をとれていない状況にあると思います。内容を

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
広島総務部長	見ますと、お食事マップ割引券つきとありますので、飲食店との協議も必要です。すぐには難しいかもしれませんが、食堂組合とかに話をすれば、なんとかできるのかなと思います。ヒアリングの際に確認します。
信太委員	婚姻届がピンクだから、わざわざ美幌に出しに来る人が町外にいるということですよ。
森久保計画担当主査	そうですね、テレビで取り上げられた昨年の11月の時は、撮影ということもあったのですが、本州から来られた方を取材していました。ピンクの婚姻届も目的でしょうが、それを入れる認証材で作成された木製フォルダが無料でプレゼントされますので、それを目的に来られますね。また、私も確認したのですが、インターネットで全国の婚姻届を出す際の特典ランキングが出されていて、そこに美幌町が出ていますので、そこで広まったのではないかと思います。
信太委員	なるほど、来る動機の1つになっているわけですね。
吉江委員	それを貰いに来るという目的？
森久保計画担当主査	元々は旅行で美幌町に来て、そこで美幌を気に入ってとか景色に感動して、特典もあるしそういった縁もあるし出そうとか、旅行も兼ねて出しに行こうとか、そのような感じだそうです。
広島総務部長	本州から、婚姻届をわざわざ美幌に出す方はそう多くはありません。新婚旅行などで美幌に来て、ピンクの婚姻届の取組もしていることだし出しに行こうかという考えだと思います。
吉江委員	フォルダは誰でももらえるの？
広島総務部長	町内町外関係なく、届出を出した人は全員貰えます。町長のコメント付きです。
吉江委員	見てみたいね。
森久保計画担当主査	持ってきます。(→一時退出)
吉江委員	なぜピンクなのですか。美幌町のイメージカラーなのかなと思いました。
城委員	ハートだからピンクというところだと思いますよ。
広島総務部長	従来の統一的な婚姻届はいい色合いではありませんでしたから、そこからピンクにしたことは、やはりお目出度い明るいことだとなりますね。
信太委員	控えが手元に残るのはいいですよ。
水島委員	昔は出しっぱなしですからね。
城委員	言えばコピーをくれましたけども、見ませんね。

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
森久保計画担当主査	複写式になっていまして、1枚目が町に出されるもの、2枚目の複写部分がお手元にお返しするものです。
吉江委員	今美幌はこの婚姻届になっているわけですね。写真はフォルダに入れられるようになっているのですか。
森久保計画担当主査	いえ、写真は入れられるようにはなっていません。
吉江委員	せっかくだから入れられるように、少し切り込みを入れるだけでもいいから作ったらいいのに。婚姻届もピンクでいいんだけど、文字もピンクだから少し見づらいですね。
水島委員	ほんとですね、紙がピンクかと思っていました。あと、このフォルダを開いて飾っておくことを考えると、表に文字や模様が彫ってあるのが見えなくなってしまうので、内側にも入れたらいいのと思います。
広島総務部長	そこも含めて担当には伝えておきます。このピンクの婚姻届は、若い職員からの提案で実現した取組です。
森久保計画担当主査	その職員が結婚して婚姻届を出したときに、その時は茶色で手元に何も残らなくてつまらないなと思ったそうです。奥さん、女性の方が気付いて、その部署に来て取り組んだそうです。
広島総務部長	とても喜ばれる取組です。それほど予算もかからないものですし。知恵と工夫でできたものですね。
吉江委員	フォルダの内側はもう少し見栄えよくしたらいいかもしれないですね。もう少し美幌だとわかるものを入れるとか。
広島総務部長	改良が必要かもしれないと伝えておきます。
城委員	昨年は何件あったのですか。
森久保計画担当主査	平均約80組でして、総合戦略の数値目標として、婚姻届出数を年間100組にするという指標を立てています。
横山会長	それでは、次の事業をお願いします。
森久保計画担当主査	はい、次は美幌町ふるさと同窓会支援事業ということで、事前にお渡ししている資料2-3になります。目的として、美幌町は自衛隊や日甜など転勤のある企業等があることから、子ども時代・学生時代を美幌町の学校で過ごした子どもが多くいます。そして、進学などに伴い、町外の高校や大学、専門学校に行く子どもたちもまた多くいます。そうして美幌町で過ごしたことのある人たちに、町内で開催される同窓会を支援することで、美幌町の暮らしやすさやふるさとといえる美幌町を改めて見つめ直し、ふるさと回帰を促す切っ掛けを作ることを目的としています。対象とする同窓会は、美幌町内の同一の保育園、幼稚園、小学校、中学校、高校の卒業生で構成される団体又はグループを想定しています。補助要件ですが、町内の飲食店で開催されること。20歳以上49歳以下と設定しています。

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
森久保計画担当主査	<p>これは若年層の回帰の切っ掛けとしてほしいので、年齢制限を設けました。同窓会で結婚するカップルが多いということから、年齢制限を設けて、成婚が図られたらいいなあという思いです。10人以上で開催され、3人以上が町外に住所を有する人という条件を設けています。そして同窓会開催時に、ふるさと納税などのパンフレットの周知などをさせていただくことも要件に入れています。補助対象経費は、開催案内文書の作成や送付に必要な印刷製本費や通信運搬費。町内飲食店等に支払う会場代等の経費又は交通費、そして集合写真を撮った場合の印刷代などを想定しています。補助金額は、補助対象経費の3分の2の補助率で上限を5万円。ただし30人以上は上限を10万円とします。予算額は60万円で、年間10回を想定しています。指標としては、町外参加者が34名で、後年度になるにつれて少しずつ増えていく目標にしています。</p> <p>この事業については、最初の提案者の目的がふるさと回帰としていましたので、同じような目的で回帰を促す取組がないかなと考えていたところ、他の市町村で行われている同窓会支援事業を参考にしてみました。その後ろに参考資料を付けております。これについても内容や要件はまだまだ精査が必要でして、皆さまのご意見をいただきたいと思っていますところです。よろしくをお願いします。</p>
横山会長	説明のありましたことについて、ご意見ををお願いします。
森久保計画担当主査	皆さんは同窓会とかやっていますか。
石川委員	自分は美幌高校を出ていますが、今まで一度も行ったことはありません。
吉江委員	悪く捉えたらよくないのかもしれないですが、親睦会みたいなのを町内の人町外の人を呼んで開催するということだけど、その本人確認をどうとるの？中学の同窓会を行う場合、その人が本当にその中学の卒業生なのか、違う学校だけど入って入ってとなっても、確認しようがないよね。町外の人もどう確認するのか。
森久保計画担当主査	町外在住であることを示す書類なり証明書の写しを出してもらうことを考えています。
吉江委員	自分は金融で信用関係にいるからかもしれないけど、出席者名簿を出してもらうとあるけど、これが本当に本人なのかどうか分からないのではと思うんですよね。やること自体はとて素晴らしいことだと思うけど、やるとしたら相当確認やらが必要だろうし、目を閉じなきゃならないところも出てくるのではないかなと懸念しています。悪い言い方をしまえば、狡いことが横行してしまうのではないかなと。考え方によっては悪用されてしまうのではと思っています。それに本人確認書といっても、今は個人情報などの問題があるから簡単にはいかない。もう少し工夫しないと難しいのではないかな。
広島総務部長	補助金ですから補助要綱を作る必要があります。この補助要綱を作るのは非常に難しいと思っています。税金を使いますので、きちっとした確認を取らなければならないことからいけば、事細かに必要な提出書類を定義しないと、補助金としては支出ができないと思います。そうなりますと、面倒で使わないということになってしまいます。そして、10人以上で5

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
広島総務部長	万円ということであれば、1人当たり5千円という金額になるわけで、飲食としては5千円もあれば十分なものとなることを考えると、言葉を悪く言えば悪用される恐れがある。そこに本人確認、町外居住者、町内居住者である確認、どういった同窓会グループなのか、その一つ一つを要綱で全て定めなければならないと思います。そのため、非常に難しいかなと思っています。ふるさと回帰はいいことなのですが、例えば美幌中学校のメンバーが集まったら、自分たちの学校がどうなっているのかとか、自分の母校に対して何かをやるのか、そういったものを事業計画に入れていただいて補助をしますか。そういうことであれば補助としては成り立つのかなど。ただ同窓会をして飲食をする集まりに対して補助をするのは、町民の方からも批判が出てくると想定されます。
信太委員	あまり深いところまで補助対象としないとかはどうでしょうか。自分も3年前に美幌高校で180人の学年同窓会があって、幹事のかたが非常に苦勞されていたんですね。卒業生の情報収集には個人情報があってなかなか進まなくて、そこで相当通信費とかかかって、幹事が自腹を切ることになっていました。その部分くらいまでを補助にすればどうか。飲食を含めると精査するのが大変なので、入り口の部分だけを補助対象にすること、先進的に実施している自治体に、不具合とかメリットを聞きながら慎重にやらないと、悪用されたりしてしまうのではないかなど。
吉江委員	ふるさと回帰はいいことだと思いますが、他市町村でも結構実施されているようですが、同じような懸念が出てると思いますね。調べたらいいかもしれないですね。
広島総務部長	このまま行くとしたら、お金を投げる覚悟でやらないといけないので、難しいと思います。
吉江委員	がちがちにしたら使いづらいでしょうし。
信太委員	そうですね、自分のときは、会費が6～7千円でそのうちの1千円ぐらいを印刷製本費として徴収していたと思います。そうした内訳が知れ渡ると、中には幹事が何かしたのではという疑惑を持つ人もいて、端から見ても幹事は苦勞されているなと思いました。
田村委員	本来は飲食ではなくてそういった印刷製本とか通信費に充てるためのものですね。
広島総務部長	そうですね。ただそれを確認を求めるものとなると、かなり手続が大変なものになるかなど。学年単位とかで行うと、収支計画書などが作成されて、実績報告もされると思いますが、10人程度のものとなると、そうしたレベルに至らない懸念があって、どうにでもお金が動いてしまうかなという恐れがあるので、厳しいかなど。ふるさと回帰という目的はいいと思うので、もう少し内容について工夫と研究が必要だと思います。
城委員	補助要件で同一の学校となっていますが、自分たちは美中と北中で合同で行うんですね。そうすると補助対象外になってしまいます。なのでもっと色々なことを考えないといけないと思いますよ。皆さん、今色々懸念事項を出しましたけども、もうちょっと精査が必要ですね。

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
森久保計画担当主査	はい、ありがとうございます。ふるさと回帰という目的を据えて、同窓会支援以外の方法も含めて考えてみます。
横山会長	はい、では続いて資料２－４についてお願いします。
森久保計画担当主査	<p>資料２－４について、まご育応援事業となっております。目的としては、未就学児のいる共働き世帯をサポートするため、町外の祖父母もしくは娘息子夫婦を美幌町内への移住を促して、三世帯が近居でもしくは同居で暮らすことで、保育料や子育ての精神的・肉体的な負担が解消されるとともに、孫と祖父母が触れあうことで、孫の健全な育成環境が整えられることを目的としています。それに移住による人口増とか祖父母の健康増進、共働きによる経済の活性化が見込まれると考えております。対象者は、美幌町内に在住する未就学児世帯で、町外に祖父母がいる者、又は美幌町内に居住する祖父母で、町外に未就学児を育成する娘息子夫婦がいる者としています。ここで未就学児世帯と限定した理由なのですが、美幌町子ども子育て支援計画が平成２７年度に策定されましたが、その際に調査したアンケート結果により、就学前の母親は、現在就労していないが４３．５％と最も多かったのですが、就学後はフルタイム５２．４％、パートアルバイトが４２．９％と就労実績が伸びています。単純に比べると、母数がかかなり異なりますので、参考にしていいものかというところはあるのですが、これを基にしています。なので、就学前の子どもの世帯については、母親が働こうと思っても難しい状況にあると思われるので、未就学児世帯として設定しております。</p> <p>補助要件ですが、町内の建設業者を利用することとしています。事業実施後に三世帯同居又は近居が確認できること。また、現在町産材活用促進事業があるのですが、それとも併用可能と考えています。内容としては、同居用住宅のリフォーム、同居用住宅の購入や新築、近居用住宅の購入や新築を対象としています。対象経費は、三世帯に対応したリフォーム費、そして、中古住宅購入費、新築費としています。補助金額はけっこう多めの補助を考えています。同居用住宅のリフォーム、同居用住宅の新築、近居用住宅の新築に対して、上限を２００万円として補助。次に、同居用中古住宅の購入、近居用中古住宅の購入では上限が１００万円。そして、同居用中古住宅を購入して更にリフォームするのであれば２００万円。この２００万円の上限というのは、今現在、美幌町で行われている起業家支援事業の上限額が２００万円なので、それを参考にしました。初年度２９年度は総額１，５００万円を年間８組を想定。３０年度以降は少し目標を高めて、１，８００万円を年間１０組を目指す指標を立てました。</p> <p>三世帯同居は、国においても推進しているものの１つでもありましたので、結構多くの他市町村でリフォーム費を補助している制度がありましたので、参考としてそれを添付しています。ただ、金額としては多くはなく、５０万円とか、高くても７０万円程度と言ったところで、それに比べてかなり高めの補助を考えました。</p> <p>この事業については、同居や近居の確認が難しいのではないかとご指摘を既に受けていますが、そこも含めて皆さまからの意見を賜りたいと思います。</p>
横山会長	はい、ありがとうございます。ただ今の説明で何か聞きたいこと、ご意見はありますか。

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
信太委員	ユニークな事業だと思いますが、ニーズとして、同居したいというものがあるのかどうかと、現在同居している方が同居して良かったと思っているのか、そこを精査した方がいいのではないかなと思います。私の個人的な考えですが、時代的に、町と農村部で離れて暮らしている人がいて、その距離感がいいということもありますし、またこれだけのリフォームをしたら、引き返せないものでありますので、後悔するといったことがないよう、もう少し現状の分析だとかが必要だと思います。
森久保計画担当主査	ありがとうございます。現状分析、その通りですね。
広島総務部長	母親側の親なら子育てのこと考えますと、まだいいと思いますけど、父親側の親となると、やはり一線二線引かなければならない、そういったものが出てくるのかなと。この事業が提案されたとき、自身の妻に聞いてみたところ、もう子育てはしたくない、ということだった。これが現実なのだと思いますね。まるっと預けられると困るということが、祖父母にはある。確かに面白い制度で、ニーズがまるっきりないか言われれば、先ほど言ったように母親側の両親と同居や近居というのであれば、なんとかあるのかなと。ただ、そういったニーズはどのくらいあるのかという現状分析と、現実的に割と早く子育ては手がかからなくなる。それを考えると、それ以降がずっと長くなるので、それが判断の余地になるのだらうと思います。一人っ子の親であれば、子世帯と同居したいとか、孫の近くで過ごしたいと思っている人にとっては、きっかけ作りにはなるとは思いますけど、ニーズとしてどこまであるのかというのは、なかなか難しい問題だと思います。おそらく祖父母が引っ越してくるのが現実的。そうすると、失礼ながら余命のことを考えると、住宅を購入してなおかつリフォームしてと考えると、難しいのかなと。
城委員	老後関係のバリアフリーとなると、それのための補助金があるので、それとの兼ね合いも必要だよな。
広島総務部長	その他、例えば離婚した母子が、両親のところに戻る場合はどうなのか、様々なケースがあります。
城委員	同窓会の時と同じで、これも同居をどう確認するのが難しいね。
広島総務部長	同じことを、プロジェクトチームからも指摘されました。確認の時に一時的に住民票を移されたら分からないよねという話で、調べる権限がない。そういった悪意を持った人はいないだろうという前提なのは分かりますが、悪いことが起きないように、要綱などで縛るしかない。そうすると、同窓会の事業もそうですが、使いづらい事業となる。
吉江委員	元々は人を増やすという目的であるならば、自分としては、足腰の弱った祖父母を、1人にしておけないから引き取るとか、それも三世帯になるので、そうすればあちこち直す必要が出てくるので、そういった方向性の方がいいのではないのかなと。
森久保計画担当主査	目的の1つにお孫さんを主眼に置いたので、子育て支援としたのです。
広島総務部長	美幌町には待機児童がないからね。待機児童がたくさんいて、親の手

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
広島総務部長	を借りてでも子育て支援のためにお願いしたいということであれば、ニーズはもう少しあるかも。
水島副会長	子どもが小さいと、祖父母世代は現役だと思います。その現役世代のおじいちゃんおばあちゃんが引っ越して来るのは難しいのではないかなと思います。自分の子どもが小さかった時を考えると、私の父母は現役で働いていたなと思ひまして。
吉江委員	そうですね。
城委員	確かにそうだ。無理ですね。
広島総務部長	確かに、自分が定年してから娘夫婦のとこに行くとなると、孫は9歳になっている。その時は子育てという感じではないね。
森久保計画担当主査	その指摘は初めていただきましたが、そもそも論ですね。未就学児としているので、この事業自体がまったく成り立たないものになりますね。
吉江委員	となると、全体的にぼやけたものになるね。
水島副会長	自分の経験ですと、私の父母ではなくて、私の祖父母が70、80歳でまだまだ元気で、その祖父母、自分の子どもから見て曾祖父母を呼ぶのはあり得るのかなと思ひましたが、逆に介護も出てくるのかなと考えてしまって、そこでやっぱ難しいなと思ひました。
広島総務部長	孫と祖父母を結びつけるとなると、ある程度遅くにできた子どもでないとならばならないということ。それに、これから定年が延びていく情勢を考えれば、もっと難しいね。いや、とても良いご意見をいただきました。
横山会長	はい、では最後の事業の説明をお願いします。
森久保計画担当主査	はい、ありがとうございます。では、最後の癒しロボット導入事業についてですが、これは村田委員からご提案いただいた事業ですので、村田委員から説明と提案趣旨をお話ししたいと思います。
村田委員	たまたまNHKの番組で、癒しロボットは他にも色々あるのですが、その時放映されていたのがアザラシ型のパロというロボットでした。このロボットを導入して、利用者の感想などが出ているのですが、利用者の精神的な軽減が図れる。生きたペットだとその世話が大変だけど、こういったロボットだとその手間がかからない。こういったもので、精神的な負担が軽減されれば、介護者の負担も改善される。これを町で購入して、色々な施設に貸し出しすれば、介護者の人手不足もある中では助けになるのではないかなと思ひて、提案しました。金額はメンテナンス付きで42万円。ギネスでも取り上げられて、世界一の癒しロボットということになりますので、癒しロボットとしては一番いいのかなと。
森久保計画担当主査	このご提案をいただいてから、インターネットで検索して、そこでこのパロというものが紹介されていたサイトを印刷して、資料2-5として皆さまに事前にお渡ししています。

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
城委員	美幌町内では公共施設や民間施設にこうしたものの導入実績はあるのですか。
村田委員	町内にはないと思います。他のどこにあるのかもちょっと調べてはいませんが、実績はかなりあると。その中には、介護者には全然話しかけない人でも、ロボットには話しかけるとか、自閉症の子どもに効果があったとか出ていました。個人で買うのは難しいので、はじめは施設に貸し出して見るところからやるとか。
横山会長	確かに、私の妻の母も、父が先になくなったのですが、話し相手が欲しいというのがあって、ここまでのロボットではないですが、ちょっとしたおもちゃ、話しかける犬の人形があったんですね。それをあげたことがあります。そういう現実があるのは分かりますので、この事業はそうした部分に効果があるのかなと思います。
森久保計画担当主査	担当部署に、保健福祉グループと入れていますが、まだ担当部署に照会はしていません。この会議後に意見とともにお伝えする予定です。
広島総務部長	これは会話できるのですか。
村田委員	いえ、クーという鳴き声をするだけです。顔を少し上下するだけで、大きな動きはできません。それがいいみたいです。毛もふさふさしているのでそれを触るのも癒されるそうです。
広島総務部長	1人1体になるのですかね。
村田委員	特養とかであれば、皆が集まる場所に1体か2体置いておけば、皆でなでたりして、癒し効果がある。
吉江委員	しかし、これを行政が行うのは違うのではないかと私は思います。いいことだと思しますので、それぞれの福祉施設が独自にやるのはいいと思うけど、行政がこれを買って貸し出しするのは、どうかなと思います。
村田委員	これは切っ掛けとして考えてもらいたい事業としています。10体くらいを所有して、それぞれの施設に貸し出して、効果があるとなればそれぞれの施設で購入するという流れにしたらいいかなど。
吉江委員	貸出となると、施設から施設へは病気が怖いような気がします。同じ施設であれば同じところにいるので問題ないと思いますが、違う施設で予防の観点から対策が追いつかずに問題が起きるのではと考えると、やはり行政の仕事ではないように感じます。それであれば、こういったものを入れるという施設に、行政が補助金を出す方がいいと思います。
横山会長	この事業はまだ担当部署にはいっていないということなので、今のご意見をまとめて、関連する国保病院だとかも含めて検討してもらったらいいのではないのでしょうか。ただ、自分の事例を述べましたように、いいことだと思しますので、その手法・やり方について考えていくことかなと。 それでは、以上6つの事業について事務局から説明がありました。それに対し、皆さまから意見をいただきましたが、総体的に何かありましたら

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
横山会長	意見をいただきたいと思います。
吉江委員	<p>観光のことってもっとないのかなと思っています。行政、ニューツーリズム、観光物産協会とそれぞれやっているのは分かりますが、人口減少はしていくものなので、交流人口を増やすことをしていかなければならないんですよ。そうしたことから、観光でいかに滞留していくか。核となるのは美幌峠であるのは間違いないので、そこから波及するもの、飲食を含めて、そうしたことを事業の中に含めていく必要があるのではないかなと。それがお金のかかることなのか、アイデアなのか分からないですが、あっちそっちでやってしまっているから、もっと統一的に上手くできないのかと思います。その時、どこか指揮を執らないといけないと思いますが、それが行政の役目だと思います。いま、別のところで豚のことを一生懸命やっていて、上手くいけば観光資源の1つになるかもしれない。そういったものを常にリンクさせていけるような事業を考えてもらいたいなと思います。</p>
広島総務部長	<p>観光振興計画が新たにできたので、その中で様々な戦略が出ていますから、それをどう推進していくかとなると、行政だけでは無理だし、観光物産協会だけでも無理だし、商工会議所だけでも無理です。特産品開発のことも、食だとかお土産だとかになると、町内一体的にやっていかないと、観光を振興していけないだろうと思います。スポットでやるには難しいので、そこを上手くつなげて1つの戦略ができあがるのが望ましいのだと思っています。観光振興計画もできましたので、少しずつですが広がりはできているのですが、それを更に推進して行くには、行政も汗を流して行かないといけないと思っています。そういったことが、この場で意見として出されたということ、本部会議などにも話して、そうした視点でいきましょうと確認を取れるような形で話をさせていただきたいと思っています。それぞれ個々に行っているところもそう思っていると思いますが、どこが音頭を執るのかということだと思います。それが行政の役割であるなら、旗振りをしなければいけないと思います。ただ、行政が旗振りとなると、お金の問題が出てきますので、そこは協議をした上で本当に必要なものには予算を付けるということの認識を持って、物事にあたるということを確認していくこととなります。そこを含めて、話をさせていただきたいと思っています。</p>
横山会長	ありがとうございます。ほか、ございますか。
田村委員	<p>人口減少ということで、美幌高校も入学者が減って、いかに選ばれるかということになっています。統合して今は6年目ですが、欠員が出ていまして、年々その数が増えています。とりわけ産業教育の方が厳しい状況で、その広報戦略をどうしようかと検討し直してもらっている状況なのですが、これまでも産業教育の方については、商工会議所さんと連携してさまざま協力いただいております、これは大きな軸になると思っています。色々な動きが私もようやく分かってきたのですが、本校の実習室なり農場なりを、どんどん使っていただきたいと思っています。これは生徒のためにもなって、文科省でもふるさと教育を謳っているものですから、産業を学んでいる生徒はもちろんのこと、普通科の生徒たちも、自分たちのふるさとの資質に目を向けるような仕掛けをしていきたいなと考えています。本校にあるものを有効活用していただきたいですし、これまで以上に深く</p>

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
田村委員	連携していきたいと思っています。これは学校からのお願いということで、よろしく願います。
城委員	たまにこの会議を美高で行ったらいいのではないですかね。施設を見学しながら、豚の飼育方法とか見たり。その他エコハウスでやったり。
横山会長	田村校長先生には、色々お世話になっていまして、地方創生の中でも美幌伝道大使として活躍している学生もいまして、豚舎から牛舎から、保育園の子どもたちと旭小学校4年生の子どもたちが、食育の関係で現場に入らせていただいて、そして今言われた学校の調理室を使って、そこで求職を取るだとかを行いました。後は、学生たちが子どもたちに教育を行って、子どもたちと一緒に給食を食べるという仕組みを、この地方創生の中でやらせていただきましたので、更にどのようにして美幌高校を応援していくかと考えていきたいと思います。
森久保計画担当主査	今お話しに出ました会議の場所なのですが、毎回毎回外というのは難しいですが、何回かに1回はエコハウスなどを利用するというところでどうでしょうか。
一同	問題ないです。
森久保計画担当主査	ありがとうございます。ではそのようにやらせていただきます。
横山会長	別の会議ではありますが、自分たちも美幌峠で会議を行ったりします。観光のことを絡めてやりますと、そうした名所を実際に見ながらやるということをしています。 では、最後のその他の説明をお願いします。
森久保計画担当主査	はい、資料は用意していませんので、口頭で説明させていただきます。今年もあと10日ほどなりまして、この1年、皆さま大変お世話になりました。年明け後のスケジュールなのですが、最初に申し上げたとおり、新しい体制でのプロジェクトチームの会議を開催して、皆さまからのKPIなどのご指摘をいただいた部分をきちんと精査して、見直しを図っていった後に、推進委員会に諮りたいと思います。開催日程はまだ決められませんので、またなるべく早めに調整をとるようにします。今年度はPDCAサイクル初めての年ということで、資料1のようなスケジュール通りにしていないんですけども、次年度はこれを目指して頑張っていきますので、次年度以降も引き続き皆さまのご支援ご協力をお願いします。ありがとうございました。
横山会長	はい、ありがとうございました。締めの挨拶として、水島副会長にお願いしたいと思います。
水島副会長	皆さま今年1年お疲れ様でした。また来年もよろしく願います。皆さま、お疲れ様でした。

了